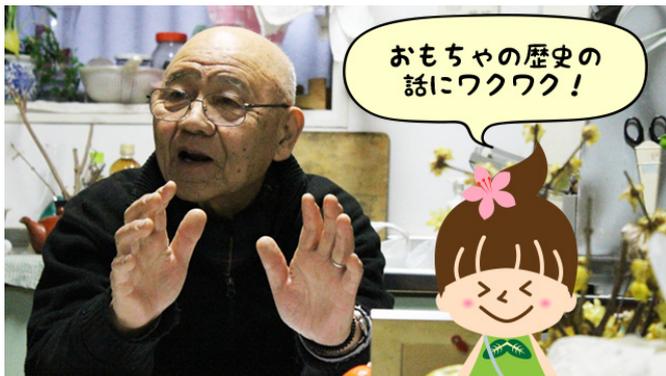


モノ作りの工場が多い三郷市だけど、かつてはおもちゃの製造工場がたくさんあったって知ってた？そんな三郷で、長年ドールハウスを販売してきた「ドールハウス・カドー」の代表村井奎二郎さんにお話を聞いてみようよ。



株式会社ドールハウス・カドーは、1924年創業。台東区蔵前に軒を連ねた玩具問屋の一つとして始まって以来、時代の流れに合わせたおもちゃの輸入、卸販売を手がけてきた商社。3代目の村井さんはこの道58年の超ベテラン！三郷市市制40周年記念の時は、「お座敷列車ツアー」を企画。車窓の風景を楽しみながら、ゆったり岩手県平泉まで行ったんだって。贅沢だね〜。あれ、つぶちゃんも参加したのね！



「おもちゃは、時代の変化にとっても影響を受ける商品なんですよ。1950年から60年代は、おもちゃの華の時代でしたよ。たくさん子供がいたしね。」  
東京の玩具問屋街に近い三郷市は、当時おもちゃ製造工場がたくさんあったんだって。  
そんな歴史があったなんて初めて知ったね。

その頃に欧米からミニチュアカーを輸入し、一大コレクターマーケットを仕掛けるなど、おもちゃの新たな販路を開拓してきたカドーさんが、もう一つ目をつけたのが当時アメリカで人気だった「ドールハウス」。「ドールハウス」とはミニチュアの家のことで、壁や屋根をイチから作ることもできるし、既成の建物にミニチュアの家具を配置したり、小物だけをコレクションするなど、色々な楽しみ方ができるもの。

以来40年以上、ドールハウスの輸入卸販売を専門に手がけ、現在はネットストアの販売が中心。  
壁紙等のパーツから調度品まで5,000種類以上という国内最大級の品揃えと、品質の良さが評判で、今では全国の会員数2万人以上！人気ぶりがうかがえるね。  
定番のアメリカンカントリー風やヨーロッパビクトリア調のコレクションのほか、襖畳敷きの和風シリーズまであるの。



オリジナル企画の家具や小物も増えているから、一度魅力にとりつかれると、どんどん集めたくなっちゃうね。



「おもちゃ業界はすごい速さで大きく変化しているけれど、ドールハウスのファンが一人でもいる限り、良いものを提供し続けたい。」と村井さん。  
趣味を楽しむファンのために、これからも夢の世界を作ってほしいな♪